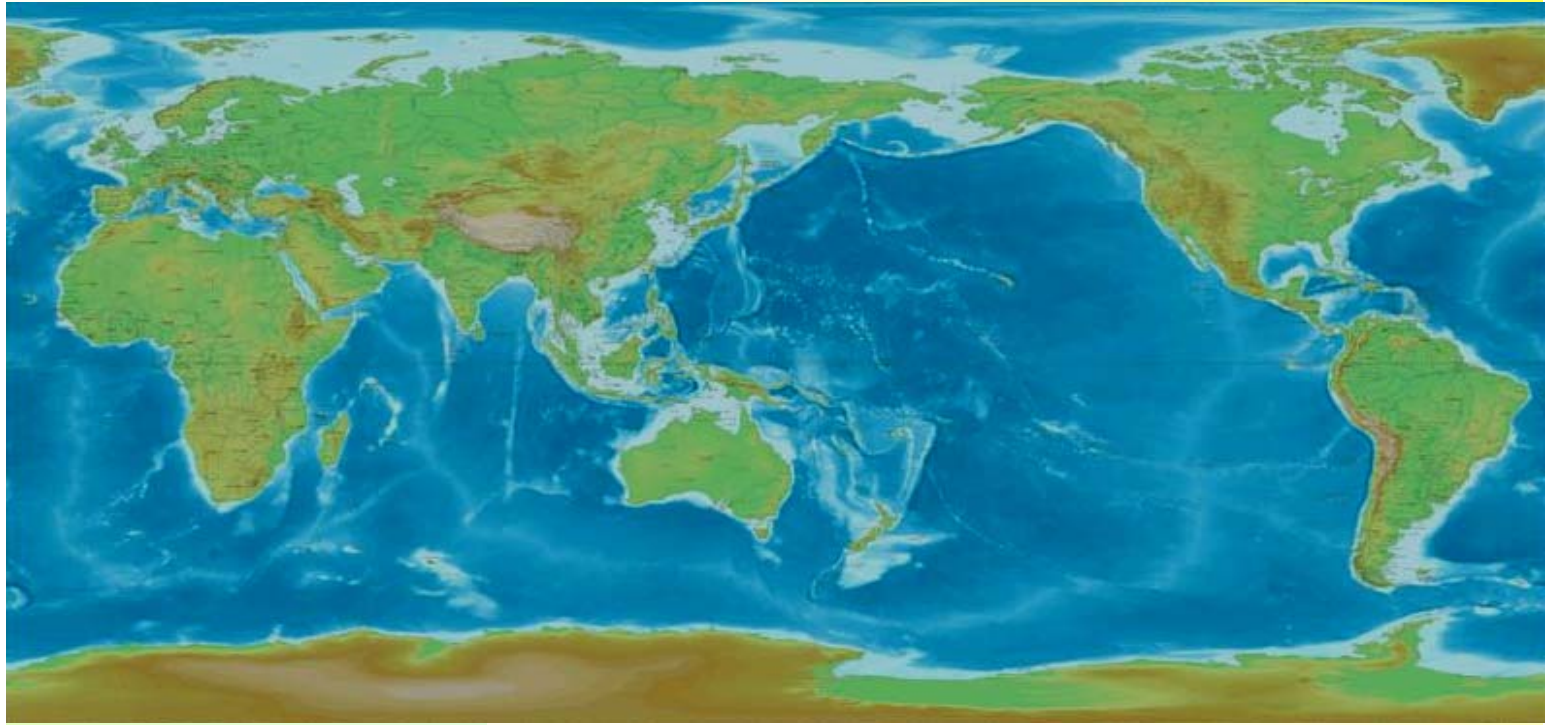


# 英語の「国際共通語」化とアジア圏の模索

—東南アジア・東アジア地域での取り組みと日本への示唆



今日、英語支配への懸念をよそに、英語はグローバル経済の用語、国際社会での支配的言語として「国際共通語化」し、日本のような非英語圏はその状況に対応することが求められている。同時に、言語は決して脱価値的なものではなく、植民地支配の歴史、民族や国民的アイデンティティ、国際的な地位なども絡み合っている。本講演会では、東南アジア・東アジア地域での英語をめぐる状況を切り口として、言語、国際的競争力と言語戦略、民族、国民的統合など、言語、文化、民族、国家を、多角的に検討し、日本への示唆を得る予定である(発表言語 英語、日本語によるレジメ、口頭での補足あり)

**平成 17 年10月12日(水) 17時30分～19時30分**

**東京大学本郷キャンパス教育学部 156 番教室**

(赤門入り斜め左の建物)

発表者

ホー・ワー・カム  
**Ho Wah Kam 教授** (レイチェスター大学)

「英語の普及と東アジア諸国への影響—日本への示唆」

ロスナニ : ハッシュム  
**Rosnani Hashim 教授** (マレーシア国際イスラム大学)

「マレーシアにおける発展の戦略としての英語—コロニアル帝国主義の道具から経済発展の推進力へ」

司会

**恒吉 僚子** (東京大学大学院教育学研究科助教授)

共催

「国際化戦略としての英語の教授用語化」**科研 研究会**(代表:恒吉僚子)